

という目標をつくって工場誘致に努力しようじゃないかということなどで、

工業適地開発の 仕組みは……

— この二、三年前から新農山漁村とか、新しい農村の村づくりという中で、一部の学者の間では農村地帯の中に一つの工場が立地条件にあわせてできる、附近の農村の人たちが農業のかたわら農外所得がふえるという形がいわゆる新しい村づくりだ、などともいわれるようですが、こういうことも熊本の適地開発の姿として考えられないでしょうか……

村田 それも一つの形だと思います。

農村地帯に根を下ろした工業をもつこと、農産加工、織物、繊維、機械などいろいろあるでしょうが、そういう形のものがあるに必要です。例えば長野県の塩田町でしたか、ミシン針をつくる相当の工場がありました。この工場は周辺の部落までどんどん下請を出して、支払う資金が二億円とかいいます。そういう仕組みのものもあるわけですね。
そのような仕組みとともにもう一つは近代的な工業地帯をつくること、この二つの面があるわけです。農地地帯とか各町村ごとに工業努力をもつという仕組みを考えることも荒廃、長洲、玉名、

八代、熊本周辺、宇土などという地帯に集団化した工業誘致をする。臨海地帯には臨海工業地帯になるように工場を入れる。こういう努力をしなければならぬと思います。臨海地帯では臨海でなければならぬ企業があるからこれを誘致しなければならぬので、すね。こういったことが、四十年度以降の一番大きな問題になってくるわけですね。

進む工業団地づくり

河端 例えは菊陽の例をとって考える

きびしさの彼方に夢みる

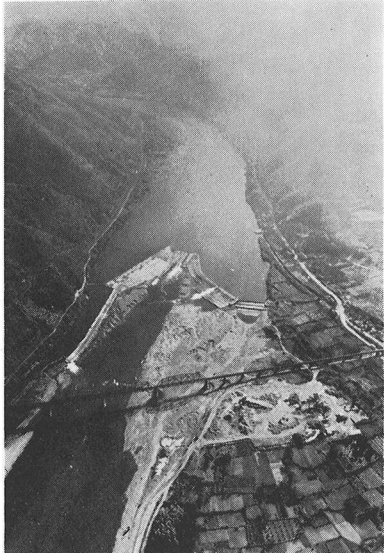
その場合に、今の日本経済は非常に難かしい時期に直面しているもので、ここは慎重なときえ万全の態勢をとるのとて行くべから……つまり「きびしさの彼方に夢みる」という言葉がさわしいと思う年だけれど、要は慎重なことを運ぼうというわけなんです。

開花期の観光くまもと—だが地域開発は計画的に……

くるとは、今まで眠って来たというところが、一挙に、しかも統一的、計画的に開発を進める上で、むしろ幸いしたともいえずうですね。

村田 とにかく、阿蘇全体の町村、住民の方々と一緒に急いで阿蘇全体の観光開発、農業開発ひくめるための青写真をつくる必要があると思ひます。そうしないと、変な観光開発などで食い荒されますよ。今年は、阿蘇にとって大切な年になりますね。

河端 それに、城北地域が、どう阿蘇と結びつき、潤おってくるかの取組をやるべきでしょうね。



写真・古田ダム建設予定地点

— 菊池へ抜けるスカイラインなどの話題もありますね。

村田 手野から大観峯を通って菊池へ出るコースですね。これは、全国でも類をみないコースになるでしょうね。豊後阿蘇に、幽深い閑寂な菊池渓谷、ちやうど、北海道の大雪山麓と十和田湖を一緒にしたようなすばらしい景観なんですね。この横断道路から、菊池、山鹿、玉名、長洲というルートは五十七号線のほかにもう一本の幹線ルートとして開いてはどうかという意見が非常に出て、われわれもそう思うから、われわれ

としますと、杉並木のところへへりついた一万坪、二万坪じゃなく、国道から白川沿いまで奥行き深く工業用地をつくって団地化していく構想をどうしているわけですね。

— 話題がとびますが、ここで瀬の本の開発を含めた、いわゆる観光開発について、お話を伺いたいのですが……
河端 熊本観光の場合、たしかに、今まで、開発の面では、遅れていたのではないですか。それが、横断道路の開通によって、大に見直され、地域にマッチした、景観を損なわないで、しかも、大家に受け入れられる計画的な集団施設を充実しようという方向にきています。そういう意味で、これからの観光は非常に明るいといえます。そうして、今年からいよいよそれが始まりますが、まづ、瀬の本の十字路から始められます。

— 話題がとびますが、ここで瀬の本の開発を含めた、いわゆる観光開発について、お話を伺いたいのですが……

— 話題がとびますが、ここで瀬の本の開発を含めた、いわゆる観光開発について、お話を伺いたいのですが……

— 横断道路も三角まで舗装が完了するとなると、いよいよ今年、架橋も合せて、天草の具体的計画が出てくることになりましょうね。

河端 やはり道路が問題でしょう。架橋事と併行して、道路は真剣に考えられなければならぬと思います。
村田 ところあらず本渡までは、二級国道らしく改良舗装できるよう、大いに推進したいですね。

八代・緑川の 農業改良事業も

— ところで、例の古田ダムと、緑川ダムですが。

村田 球磨川に、八代平野土地改良事業の一環として作られるダム、つまり新造降服ですが、これは三十九年度から着工段階に入っています。この堰が出来ますと八代平野の農業用水十分に供給できるといふことになり、又工業用水の取水配にもなるわけですね。四十年度から国直轄事業で具体的な工事が始まると思ひますがこれによって八代地区における農業のかがい、工業用水の確保のための諸施設ができます。ところで大きな意義があると思ひます。
緑川ダムは建設省が昨年度から八千万円の予算で仕事を始め、四十年度、四十一年度に調査を、そして四十一年度から四

小さいながらも自分たちの力を結集して団結の力で対抗するよなやり方にかえなければいけないという気分は非常に高まってきたようです。それも新産都市が県内の企業者にあたえた一つの影響の現われかと思ひます。又それとでは例えは臨海工業地帯ができて下請さえもできないだろう事が自覚されはじめてきたとすね。それが第一一番目に植木町であわられてきて、そして菊陽に形成されてきている。そういう一団地化の形成というの昭和四十年には相当進んだらうと思ひます。

このほか、県の有料道路が、年明け早々に開通して、阿蘇の火口への循環道路が完成するわけで、五十七号線の交通緩和に役立つ、あるいは観光客の要求も満たせることにならうと思ひます。
村田 それからもひとつ。今年は、高森から日の影へ結糸鉄道高千穂線が着工されるはずですね。これが完成しますと北からの横断道路、従来の東西の五十七号線に加えて南に高千穂線がぬけることになるわけで、これは阿蘇にとって非常に大きな革命ともいえることですね。そうなること、これまでも、遅れていたといわれる産業や資源が生きて開発されて

十二年度から着工になる見込みです。これは緑川沿線の農業用水改良事業と宇城地区、三角入野地区の用水事業のための新しい意欲的な計画の基礎となるものとして、おざけり本脈では最大の多目的ダムになるだらうと思ひます。
今年はそのうち、意欲で、緑川総合農業改良事業の具体的な計画をさらに推進すべき年になるわけですね。
河端 今の緑川ダムの開発に関連してこの地域のかくれた観光資源の開発にも非常に役立つことと思ひます。
— ではこの辺で……どうも有難うございました。

新年おめでとうございませう。
昭和四〇年、西歴一九六五年。さて、このところ、まったく使われなかつた日本紀元では何年でしょうか。紀元二六二五年になります。まずはともあれ本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

編集部

ついでながら編集部からのお知らせです。ご存じのとおり本誌はこれまで、隔月に発行してまいりましたが、今年からは従来の型ではなくに「公聴版」を合間に発行することにいたしました。「公聴版」は都合によりお手元に届きません。従ってこれからの広報くまもと通巻番号は一号づつ飛びますので、どうぞご了承ください。